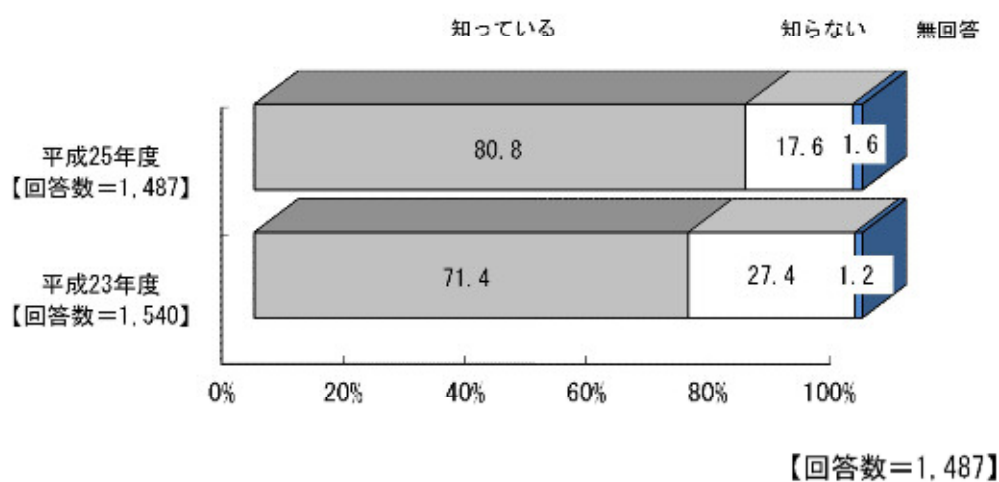


V 調査結果の分析

1. 防災意識について

問7. 市では、地震や風水害などで皆さまに危険が生じた時に避難していただく第一避難所として、市立小・中学校を指定しています。あなたは、このことをご存じですか？（〇は1つだけ）

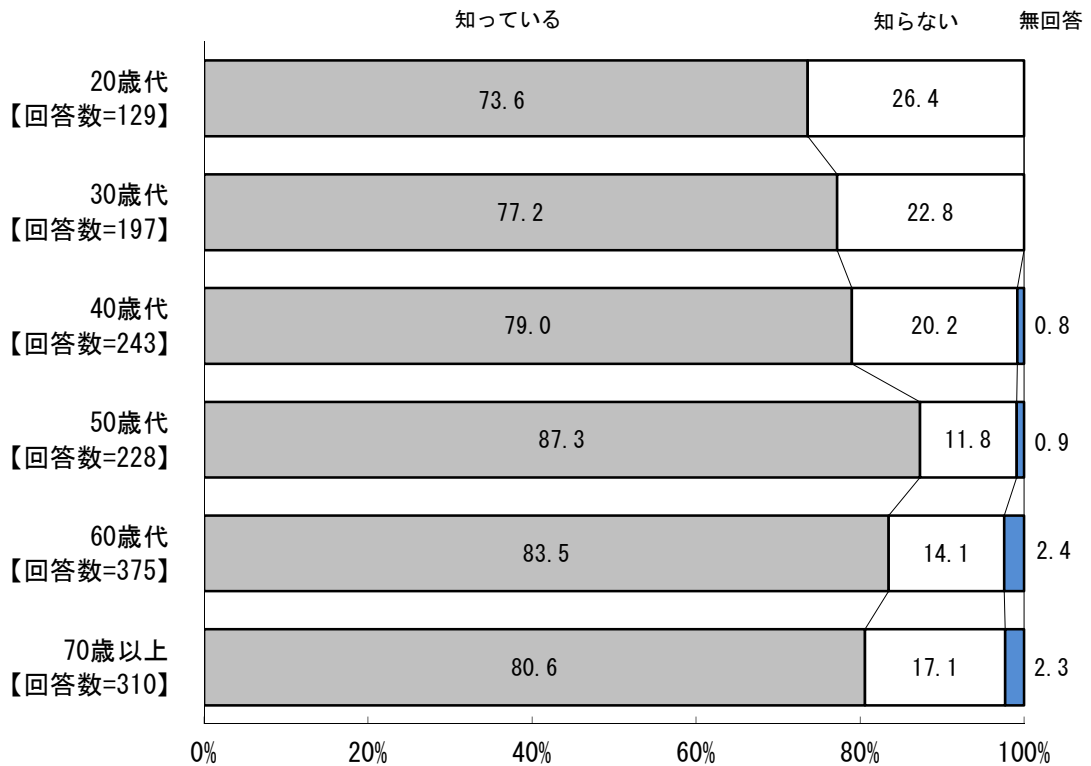
図 1-1 災害時の第一避難所の認知度



災害時の第一避難所の認知についてたずねた。「知っている」が80.8%、「知らない」が17.6%で、前者は後者の約4.6倍となっている。

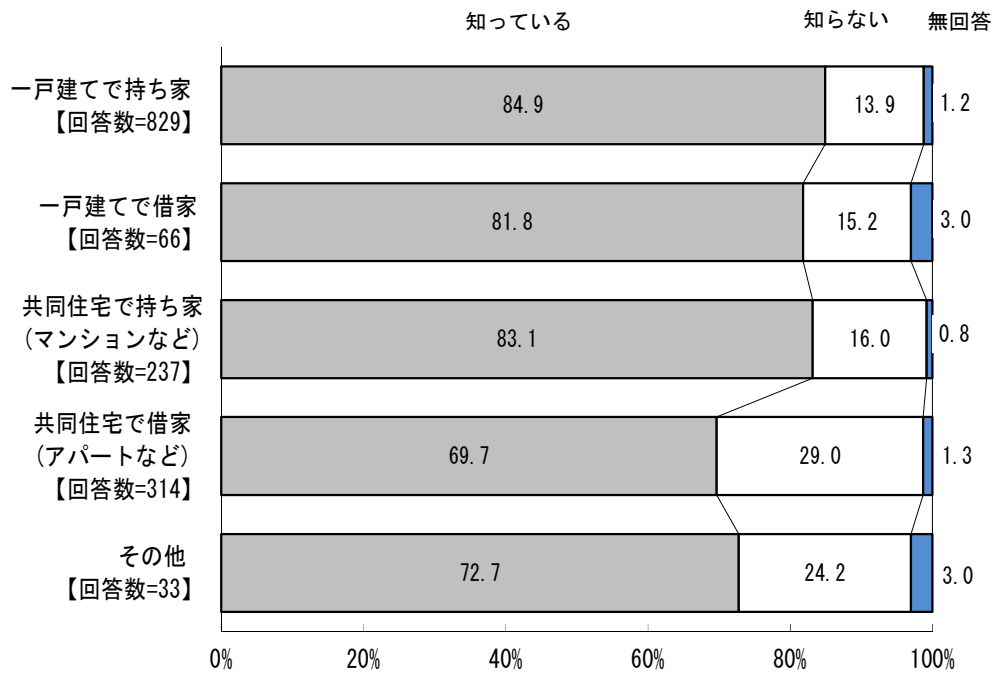
平成23年度調査と比較すると、「知っている」が9.4ポイント増加している。(図1-1)

図 1-2 年代別 災害時の第一避難所の認知度



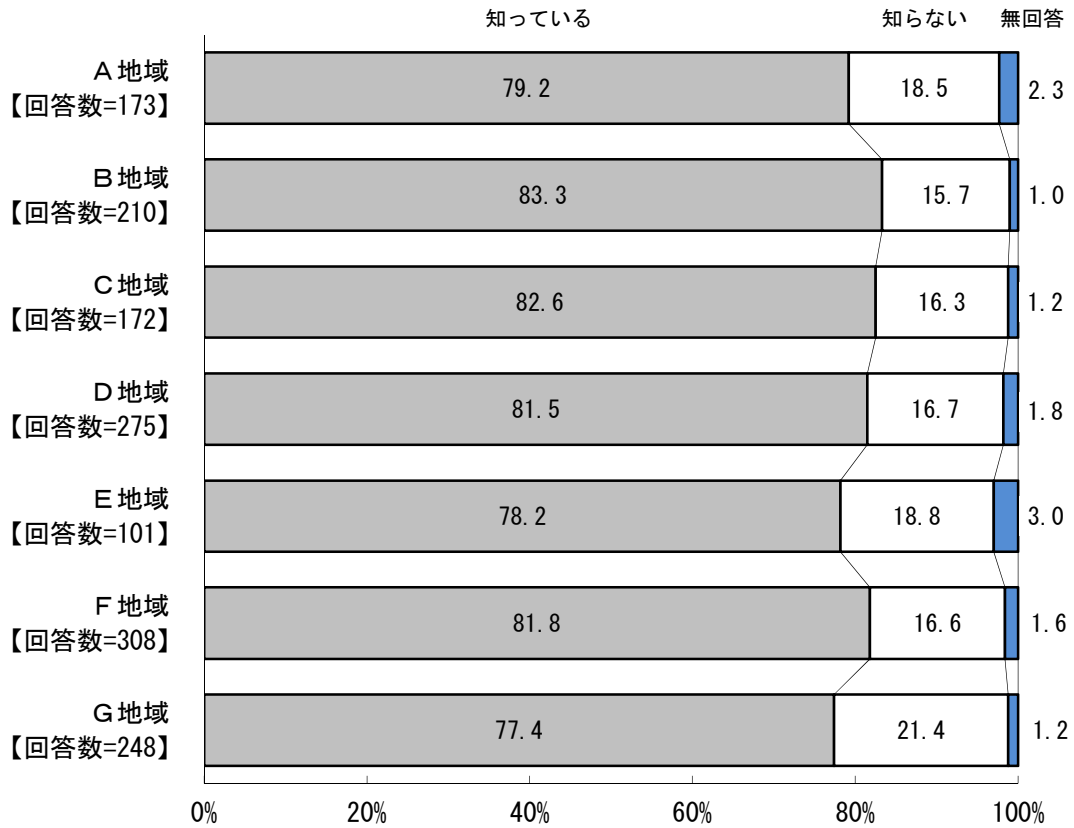
年代別にみると、『50歳代』で、「知っている」が87.3%と他の年代に比べ最も高く、次いで『60歳代』で83.5%、『70歳以上』で80.6%と続いている。一方、『20歳代』では「知らない」が、26.4%と最も高くなっている。(図 1-2)

図 1-3 住宅状況別 災害時の第一避難所の認知度



住宅状況別にみると、『一戸建てで持ち家』で「知っている」が84.9%と他の住宅状況に比べ最も高く、次いで『共同住宅で持ち家(マンションなど)』で83.1%、『一戸建てで借家』で81.8%と続いている。一方、『共同住宅で借家(アパートなど)』では、「知らない」が29.0%と最も高くなっている。(図 1-3)

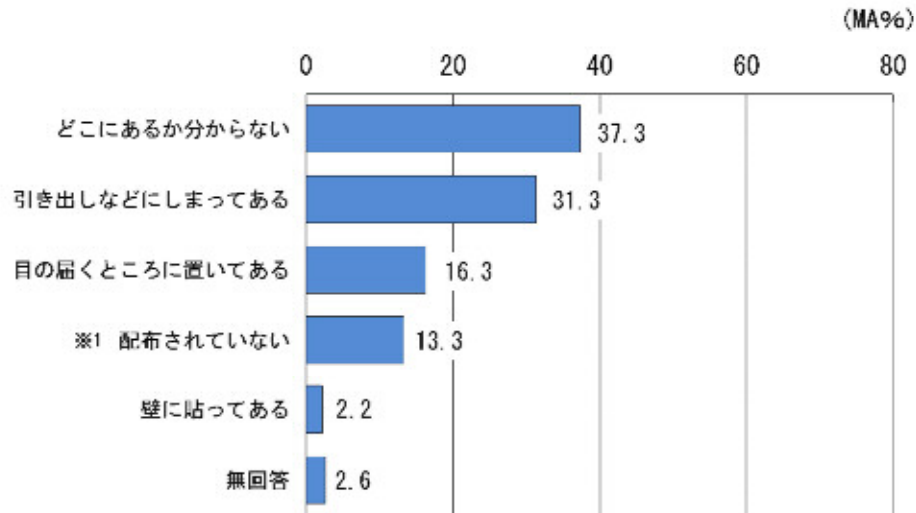
図 1-4 地域別 災害時の第一避難所の認知度



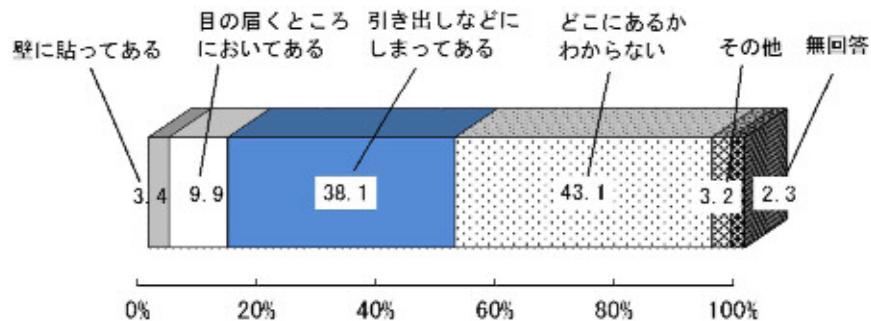
地域別にみると、半数以上で8割を超えており、なかでも『B地域』で「知っている」が83.3%と他の地域に比べ最も高くなっている。一方、『G地域』では「知らない」が21.4%と最も高くなっている。(図 1-4)

問 8. 市では、これまでに「東大阪市防災マップ」と3種類のハザードマップ(「東大阪市洪水ハザードマップ」「東大阪市洪水・土砂災害ハザードマップ」「東大阪市大雨災害に備えて」)を皆さまに配布しましたが、あなたはどこに保管されていますか？(〇はいくつでも)

図 1-5 東大阪市防災マップ・ハザードマップの保管場所(複数回答)



【平成 25 年度調査 回答数=1,487】



※2【平成 23 年度調査 回答数=1,540】

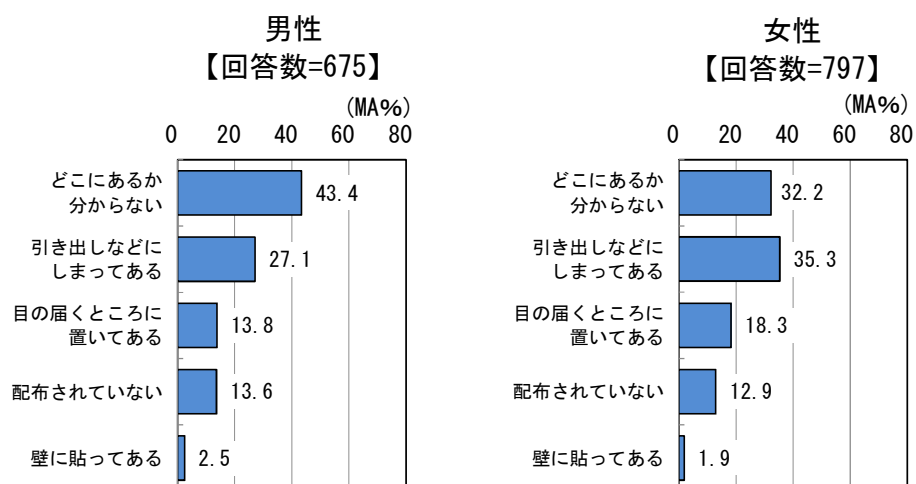
※1 「配布されていない」は平成 25 年度より調査

※2 平成 23 年度では、単数回答で「洪水・土砂災害ハザードマップ」の保管場所のみ調査

東大阪市防災マップ・ハザードマップの保管場所をたずねた。「どこにあるか分からない」が 37.3%と最も高く、以下「引き出しなどにしまっている」(31.3%)、「目の届くところに置いてある」(16.3%)などの順となっている。

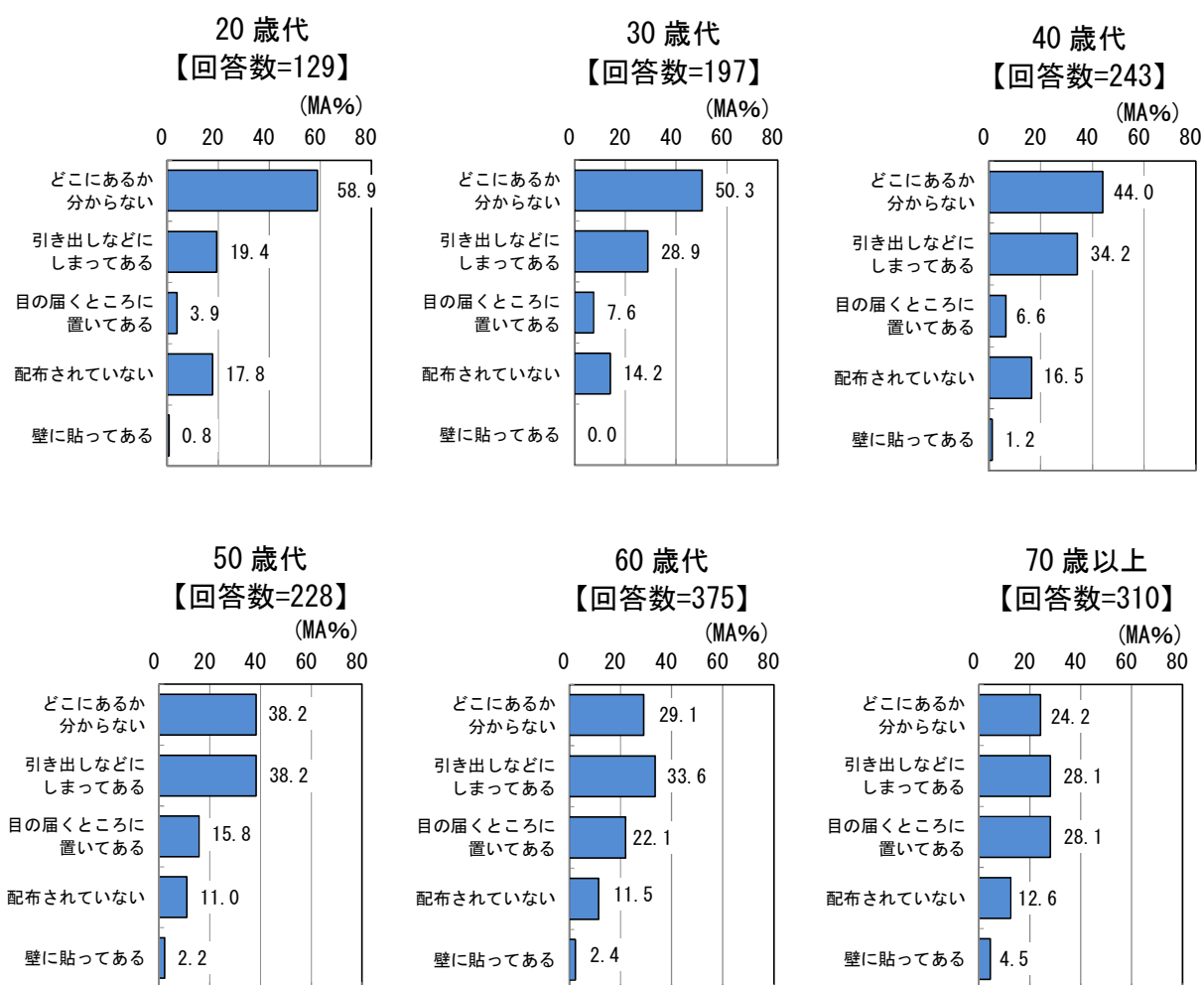
選択方式が異なるが平成 23 年度調査と比較すると、上位 3 番目までの順位は変わっていない。(図 1-5)

図 1-6 性別 東大阪市防災マップ・ハザードマップの保管場所【上位 5 項目】（複数回答）



性別に上位 5 項目をみると、『男性』で全体と同様の傾向となっているが、『女性』では「引き出しなどにしまっている」が 35.3%で最も高く、また、『男性』に比べ 8.2 ポイント上回っている。（図 1-6）

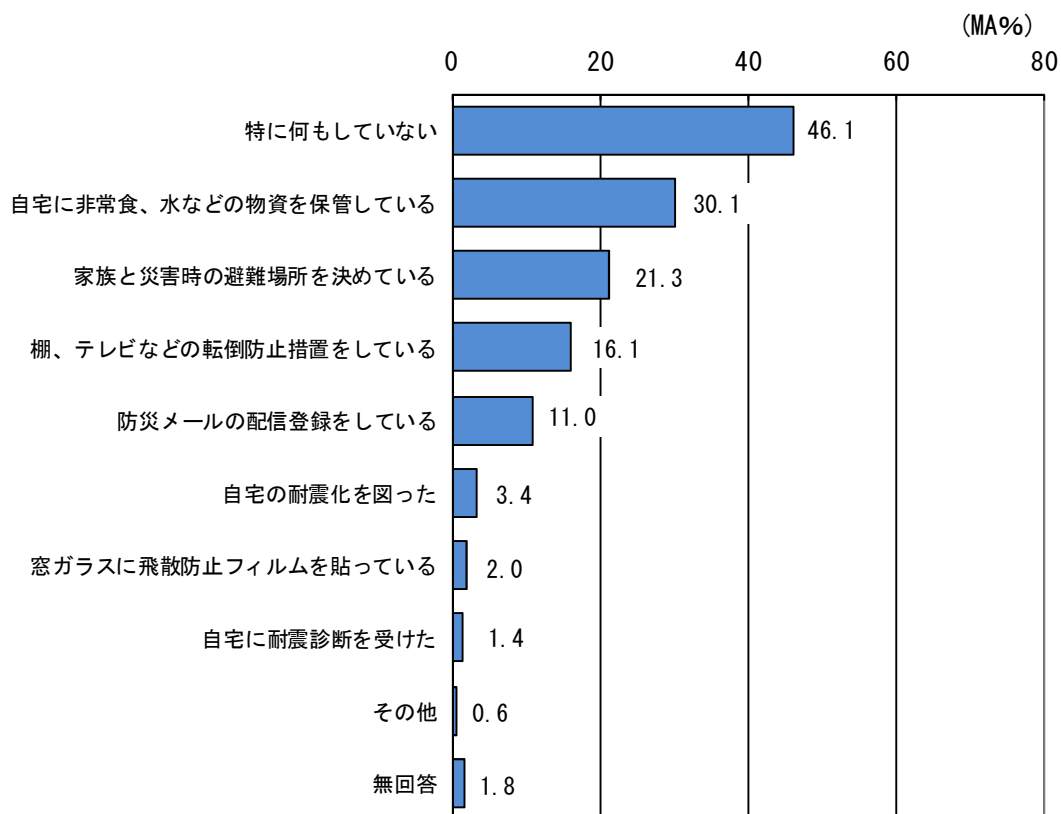
図 1-7 年代別 東大阪市防災マップ・ハザードマップの保管場所【上位 5 項目】（複数回答）



年代別に上位 5 項目をみると、『50 歳代』から『70 歳代』で「引き出しなどにしまっている」が、いずれも最も高くなっている。一方、『20 歳代』から『40 歳代』では「どこにあるか分からない」が最も高くなっている。（図 1-7）

問9. あなたは防災に関して、どのような対策を講じておられますか？
(〇はいくつでも)

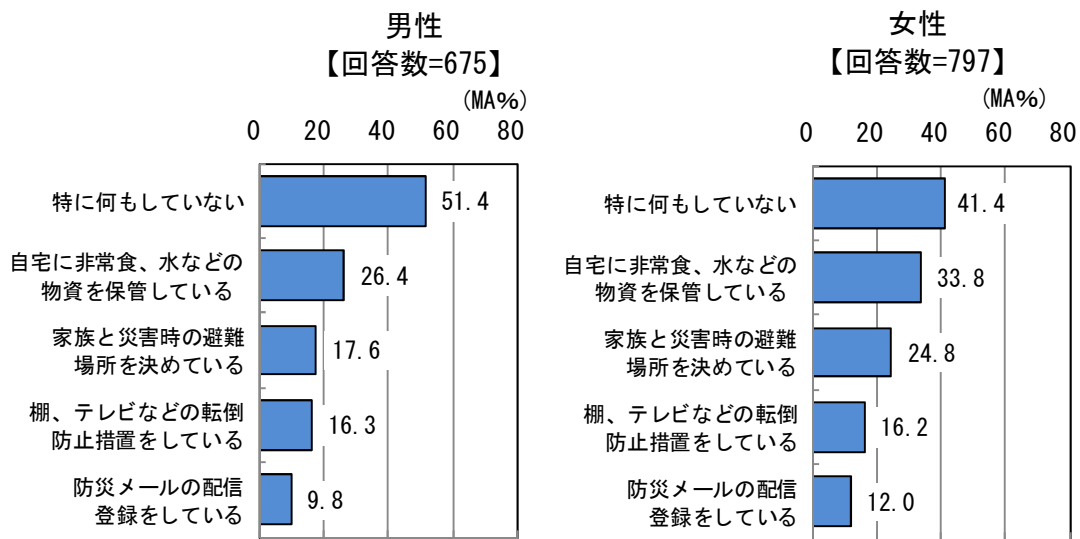
図 1-8 防災に関する対策(複数回答)



【回答数=1,487】

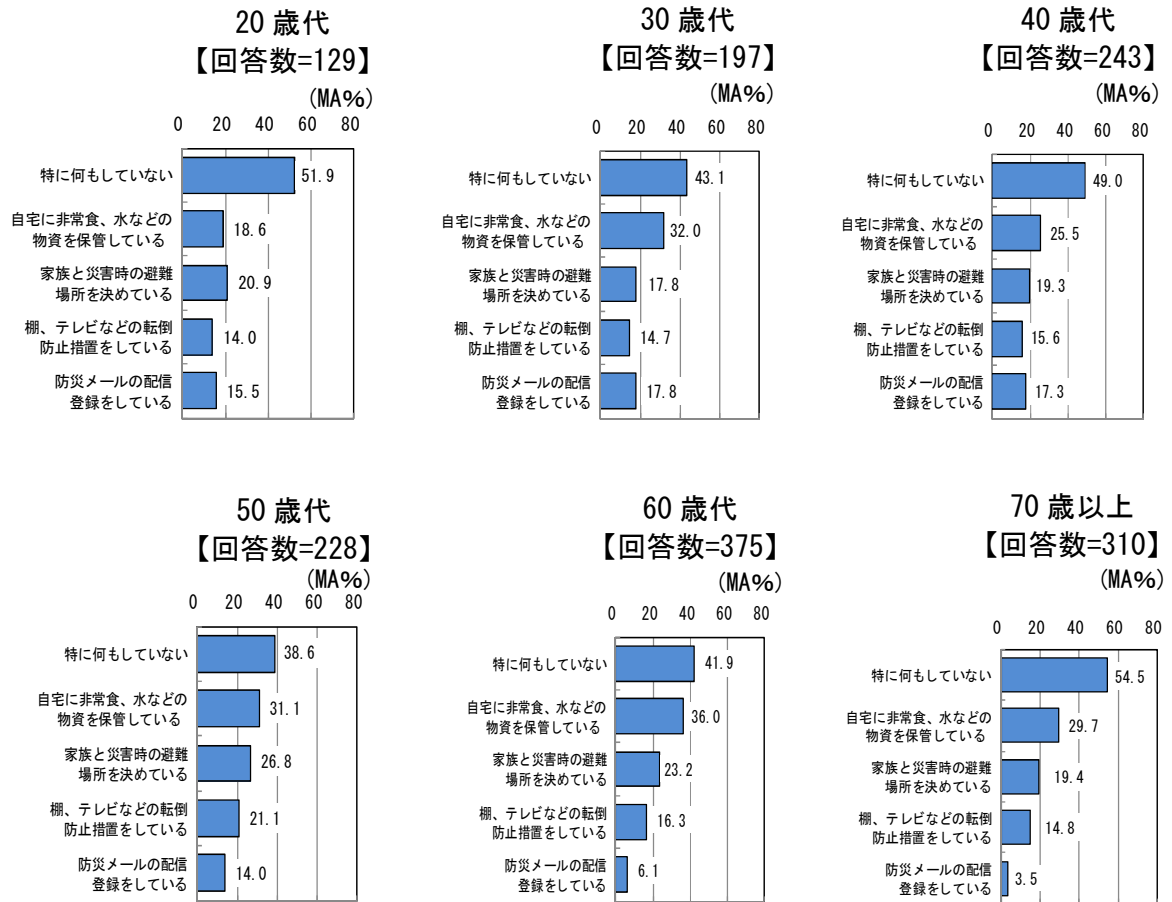
防災に関する対策をたずねた。「特に何もしていない」が46.1%と最も高く、以下「自宅に非常食、水などの物資を保管している」(30.1%)、「家族と災害時の避難場所を決めている」(21.3%)、「棚、テレビなどの転倒防止措置をしている」(16.1%)などの順となっている。(図 1-8)

図 1-9 性別 防災に関する対策【上位 5 項目】（複数回答）



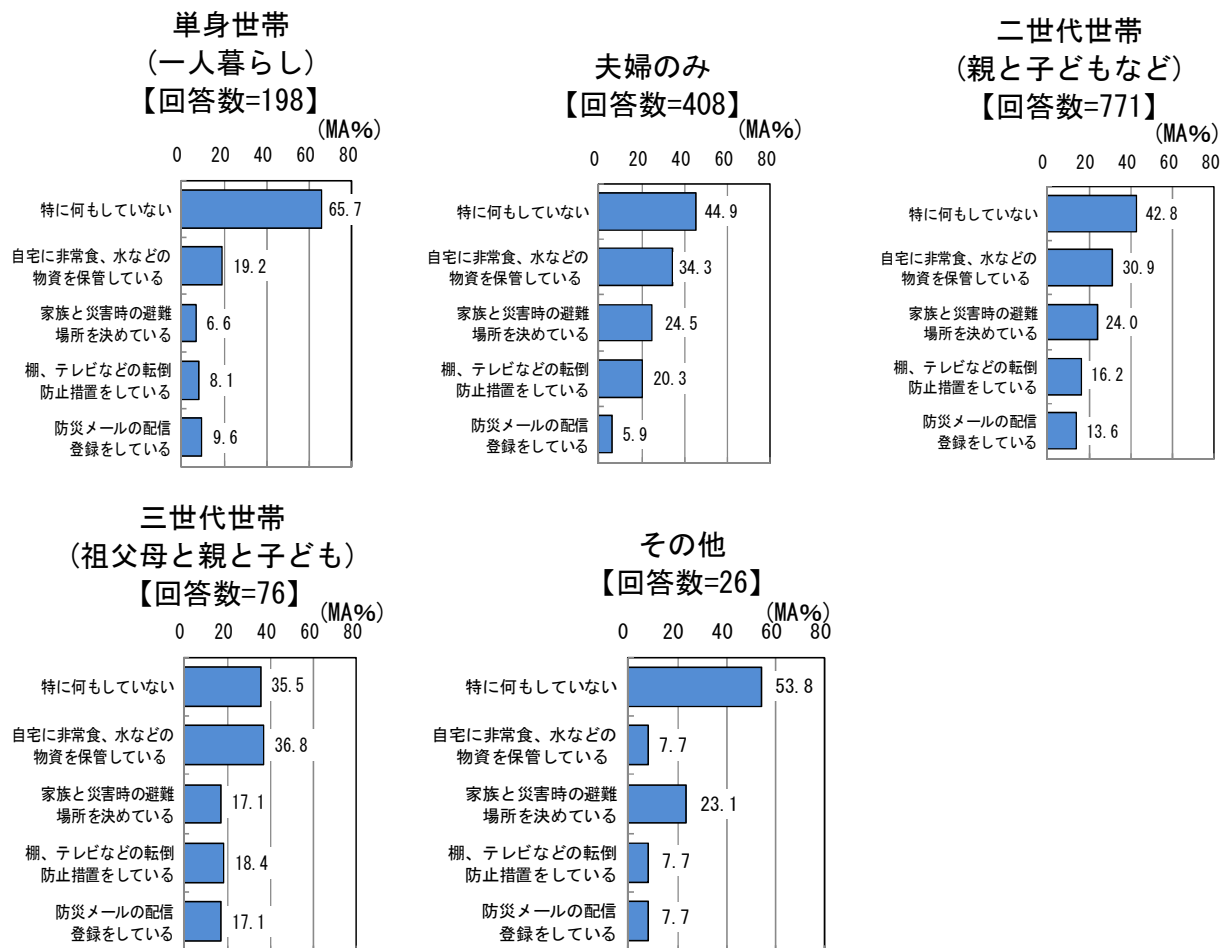
性別に上位 5 項目をみると、男女とも全体と同様の傾向となっている。『男性』は「特になし」が 51.4% で『女性』に比べ 10 ポイント上回っている一方、『女性』では「自宅に非常食、水などの物資を保管している」が 33.8% で『男性』に比べ 7.4 ポイント上回っている。（図 1-9）

図 1-10 年代別 防災に関する対策【上位 5 項目】（複数回答）



年代別に上位 5 項目をみると、『50 歳代』から『70 歳以上』は全体と同様の傾向となっている。『20 歳代』で「自宅に非常食、水などの物資を保管している」が 18.6%と他の年代に比べ最も低くなっている。また、『60 歳代』『70 歳以上』で「防災メールの配信登録をしている」が、それぞれ 6.1%、3.5%と低くなっている。（図 1-10）

図 1-11 家族構成別 防災についての対策【上位 5 項目】（複数回答）

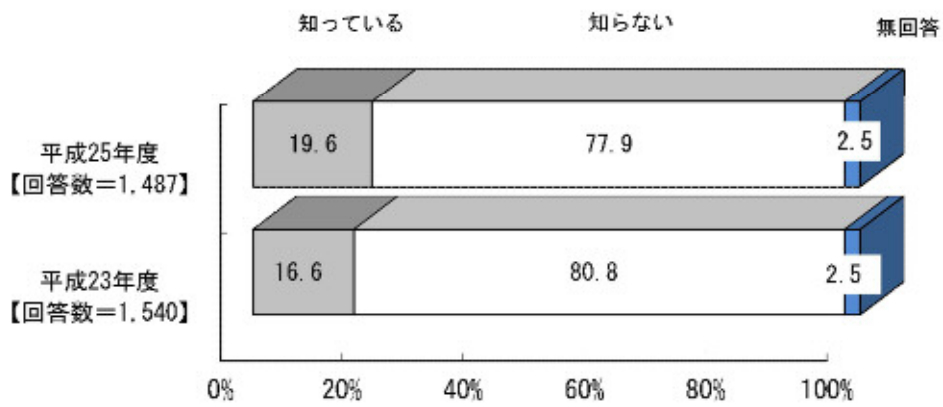


家族構成別に上位 5 位をみると、『夫婦のみ』『二世帯世帯（親と子どもなど）』は全体と同様の傾向となっている。『三世帯世帯（祖父母と親と子ども）』で「自宅に非常食、水などの物資を保管している」が 36.8%と最も高くなっている。

一方、『単身世帯（一人暮らし）』では、「特に何もしていない」が 65.7%と他の家族構成に比べ最も高くなっている。（図 1-11）

問 10. 自分たちのまちは自分たちで守ることを目的とする自主防災組織が地域ごとにあるのはご存知ですか？（〇は 1 つだけ）

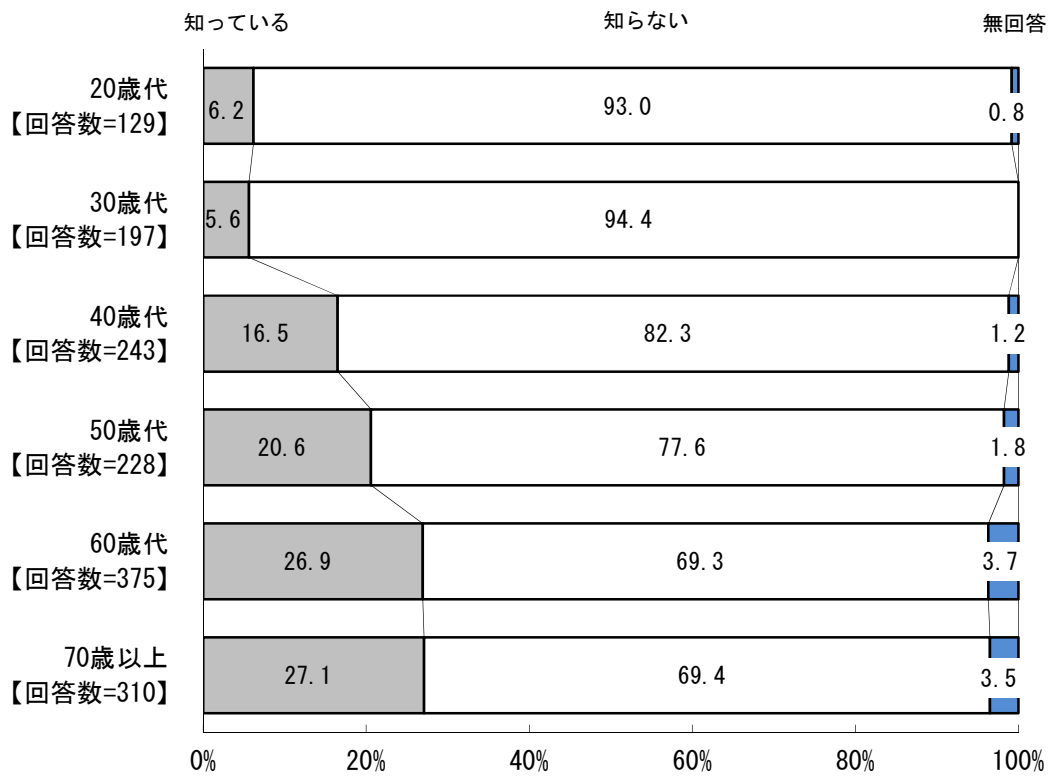
図 1-12 自主防災組織の認知度



自主防災組織の認知についてたずねた。「知っている」が 19.6%、「知らない」が 77.9%で、前者は後者の約 4 倍となっている。

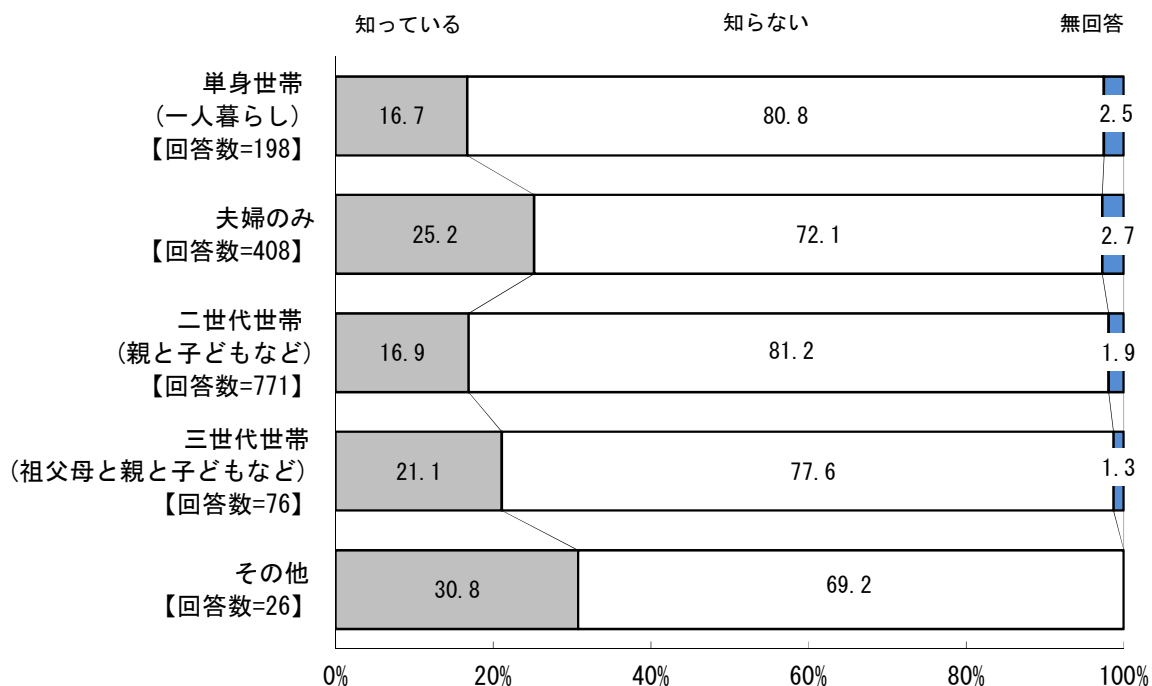
平成 23 年度調査と比較すると、「知っている」が 3.0 ポイント増加している。(図 1-12)

図 1-13 年代別 自主防災組織の認知度



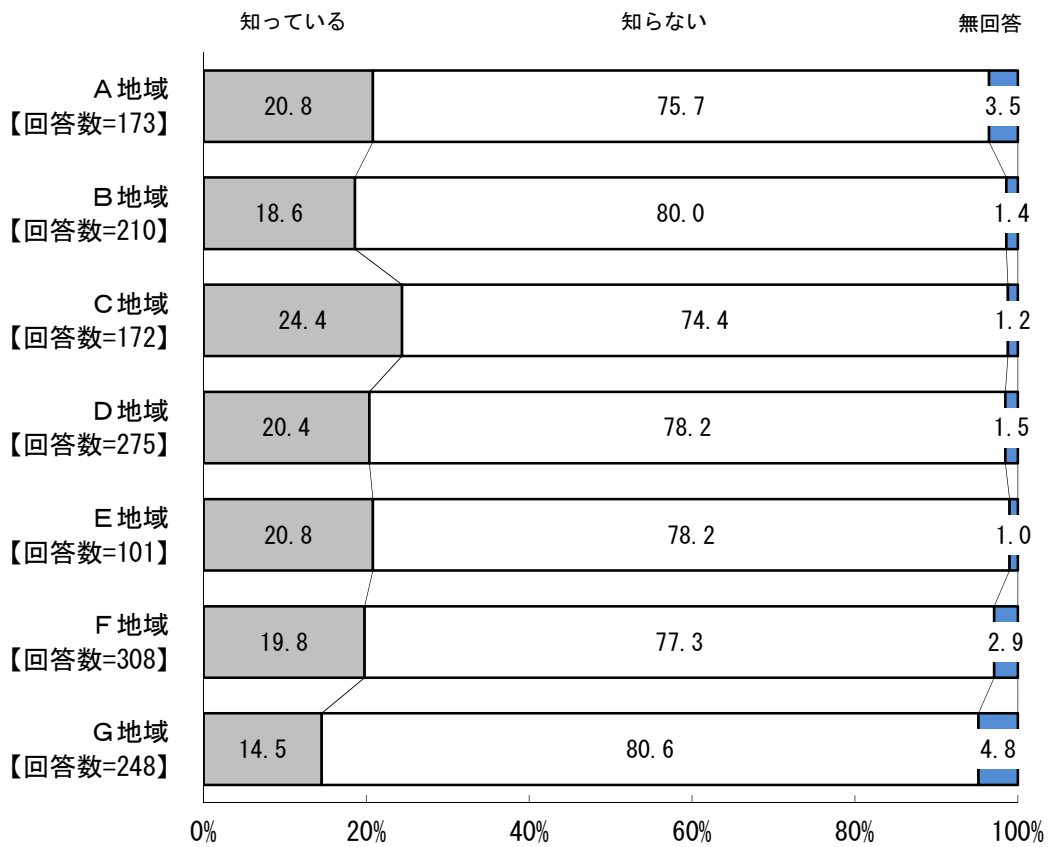
年代別にみると、『20歳代』から『30歳代』にかけて、「知っている」が一桁台と低くなっているが、以降年代が上がるにつれ高くなっており、『70歳以上』で27.1%となっている。(図 1-13)

図 1-14 家族構成別 自主防災組織の認知度



家族構成別にみると、『夫婦のみ』で「知っている」が25.2%と最も高く、次いで『三世帯世帯（祖父母と親と子どもなど）』が21.2%、『二世帯世帯（親と子どもなど）』が16.9%、『単身世帯（一人暮らし）』が16.7%と続いている。（図 1-14）

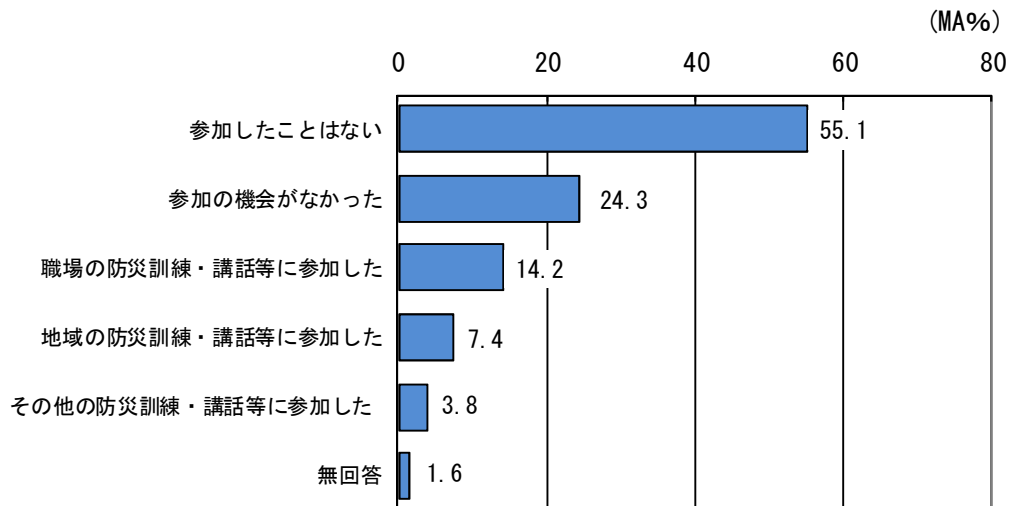
図 1-15 地域別 自主防災組織の認知度



地域別にみると、『C地域』で「知っている」が24.4%と最も高く、次いで『A地域』『E地域』が同率で20.8%、『D地域』が20.4%と続いている。一方、『B地域』『G地域』では「知らない」が8割を超えている。(図 1-15)

問 11. あなたは、過去2年間に地域や職場の防災訓練・講話など防災関連の催しに参加したことがありますか？（〇はいくつでも）

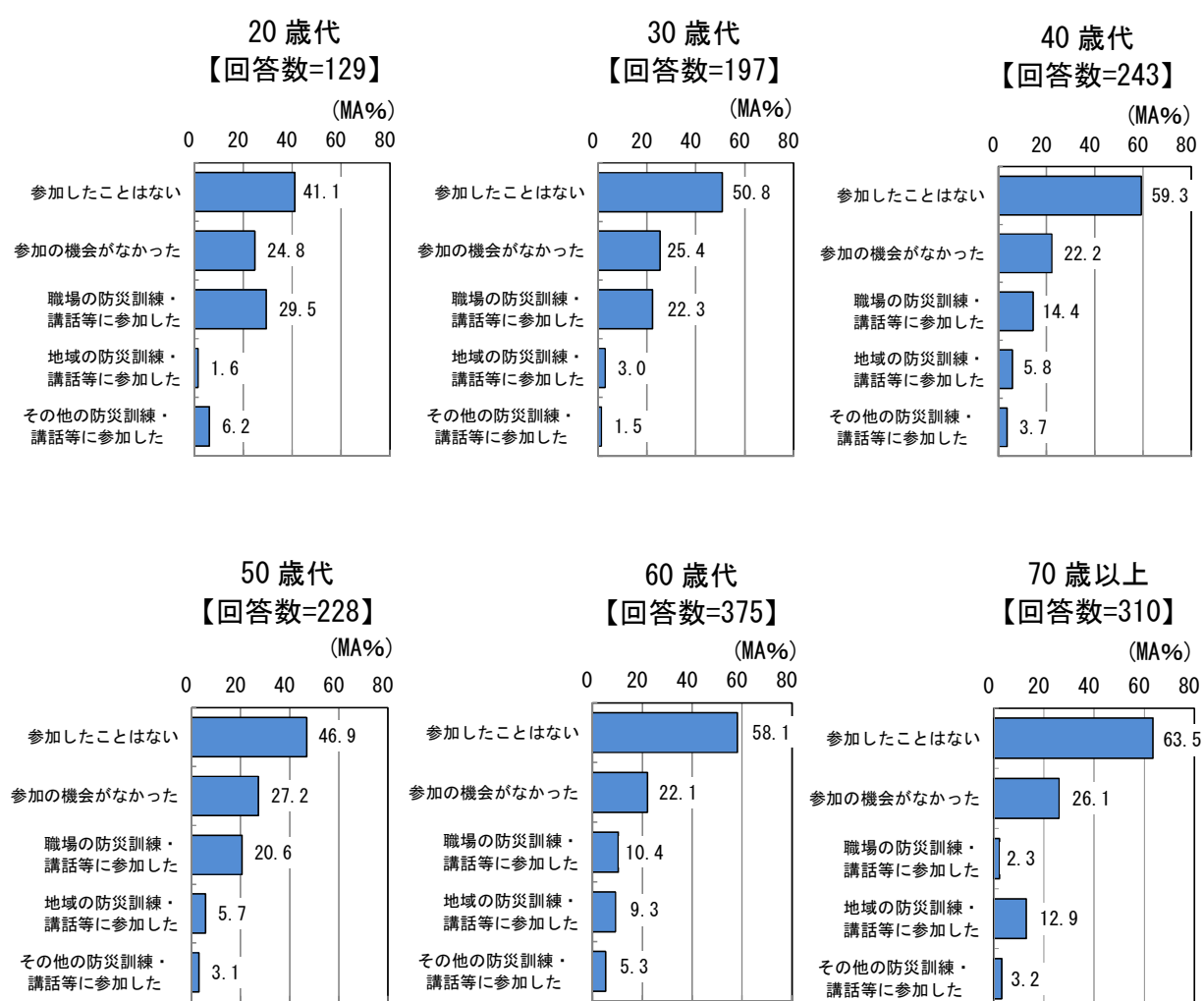
図 1-16 過去2年間の防災関連の催しの参加有無（複数回答）



【回答数=1,487】

過去2年間の防災関連の催しの参加有無をたずねた。「参加したことがない」が55.1%と最も高く、以下「参加の機会がなかった」（24.3%）、「職場の防災訓練・講話等に参加した」（14.2%）などの順となっている。（図 1-16）

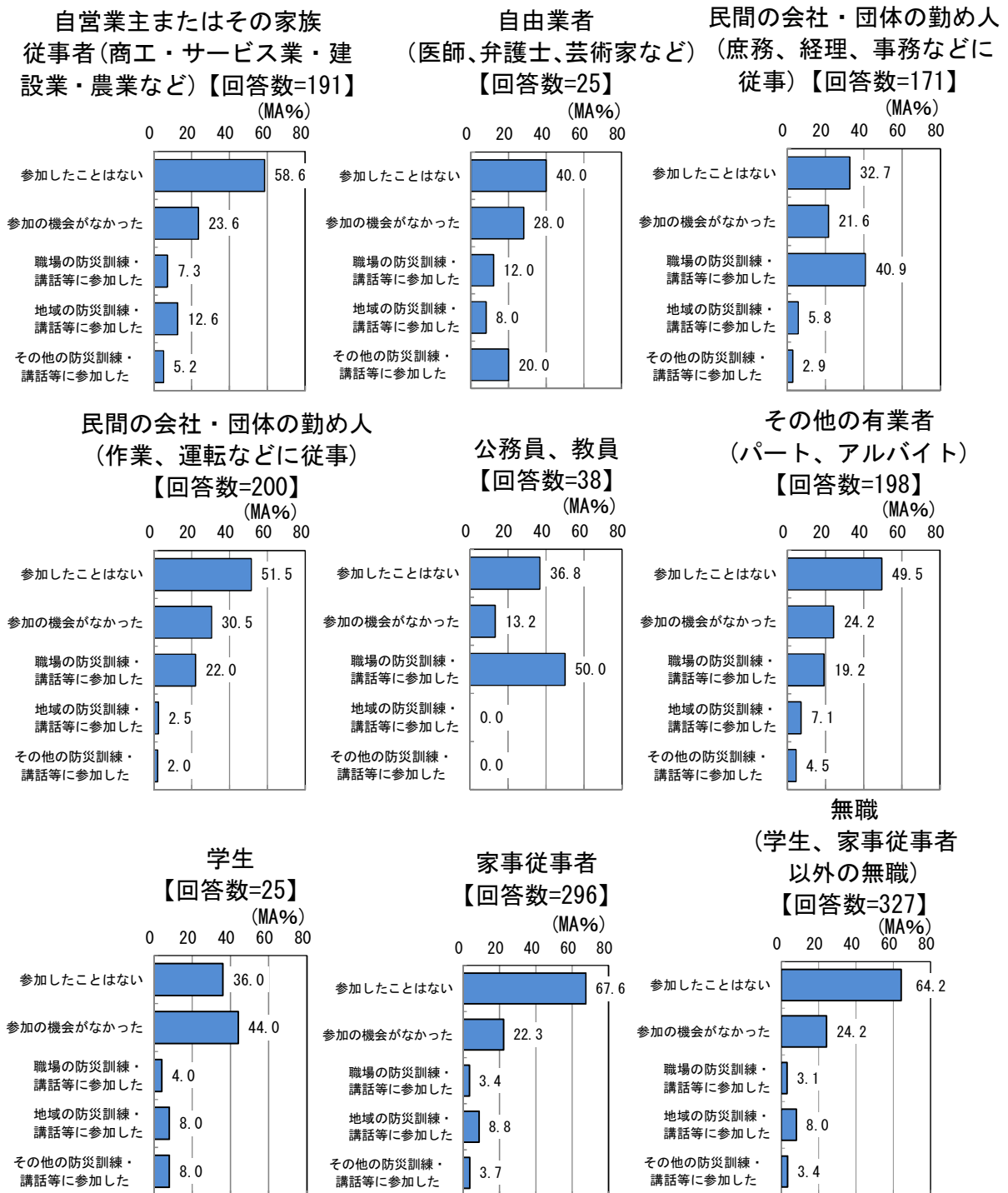
図 1-17 年代別 過去2年間の防災関連の催しの参加有無【上位5項目】(複数回答)



年代別に上位5項目をみると、『30歳代』『40歳代』『50歳代』『60歳代』では全体と同様の傾向となっている。一方、『20歳代』では「職場の防災訓練・講話等に参加した」が29.5%と他の年代に比べ最も高くなっていること、また「地域の防災訓練・講話等に参加した」が1.6%と同じく最も低くなっていることが特徴である。

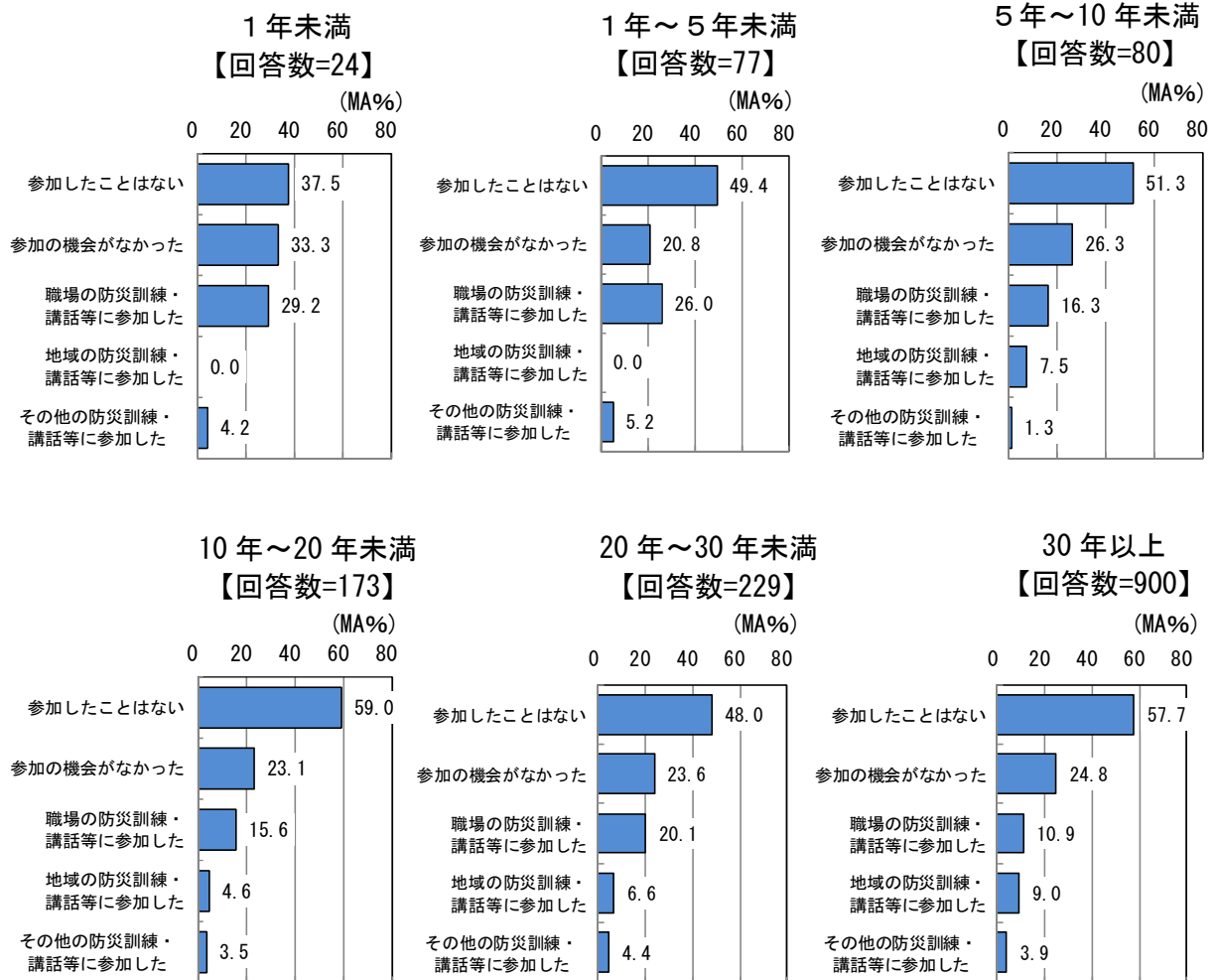
また、『70歳以上』では「参加したことはない」が63.5%で他の年代に比べ、最も高くなっている。(図 1-17)

図 1-18 職業別 過去 2 年間の防災関連の催しの参加有無【上位 5 項目】（複数回答）



職業別に上位 5 項目をみると、『自営業またはその家族従事者（商工・サービス業・建設業・農業など）』で、「地域の防災訓練・講話等に参加した」が 12.6%と他の職業に比べ高くなっている。『民間の会社・団体の勤め人（庶務、経理、事務などに従事）』や『公務員、教員』で、「職場の防災訓練・講話等に参加した」がそれぞれ 40.9%、50.0%と高くなっている。『学生』で、「参加の機会がなかった」が 44.0%、『家事従事者』『無職（学生、家事従事者以外の無職）』で、「参加したことはない」がそれぞれ 67.6%、64.2%と高くなっている。（図 1-18）

図 1-19 居住年数別 過去2年間の防災関連の催しの参加有無【上位5項目】（複数回答）



居住年数別に上位5項目をみると、「5年～10年未満」以上で全体と同様の傾向となっている。また、『1年未満』で「参加の機会がなかった」が33.3%と他の居住年数に比べ最も高くなっている。『1年～5年未満』で「参加の機会がなかった」(20.8%)に比べ「職場の防災訓練・講話等に参加した」(26.0%)が高くなっている。(図 1-19)